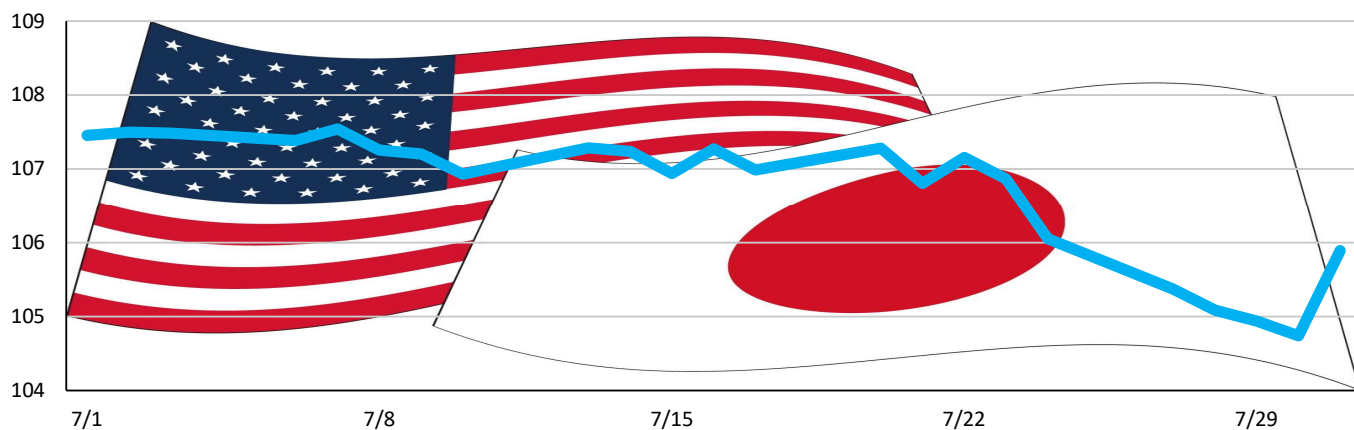


MARKET REVIEW

先月の振り返り: 7月のドル円相場は108円前半～104円前半で推移。コロナ感染拡大に伴う悲観論と株高を背景にした楽観論の攻防が続き、ドル円は月中まで一進一退の動きを繰り返した。その後、EU復興基金が合意に達したことを好感しユーロ買いが先行。さらに米国が中国に対してヒューストン領事館閉鎖を通告、中国が報復措置として武漢の領事館閉鎖を通告したことで、米中対立激化による株安などでドルが売られた。30日に発表された米GDPが年率マイナス32.9%だったことや日本でのコロナ感染者数増加に伴うリスク回避の動きで、104円台前半まで円高が進んだものの、ユーロ圏GDPがマイナス40.3%と米国以上の悪化にユーロ売りが加速。ドル買い戻しの動きに引っ張られ、ドル円も106円台を回復する荒い展開だった。

(円) 米ドル円為替レート(終値ベース)



EXTRA VISION

今後の展開: コロナ感染拡大による経済指標悪化や米中対立激化がマーケットの関心事となっている。企業業績見通しや決算などは軒並みマイナス発表だったが、ある程度想定されていたことで、各国政府が今後も大規模な経済対策を行う期待感があり、現時点で悲観するほどではない。それよりも米中対立がより深刻化してきたことの影響が大きい。一部で戦争状態という声も聞こえ始めたが、コロナで世界経済が悪化している状態では悪影響しかなく、金価格の上昇が止まらないことがマーケットの答えではないだろうか。これらのことから潜在的なドル売りの動きに注意しておきたい。

今月の主な経済指標 ※ 日本時間

日付	時間	国	指標名	重要度
8 / 25 (火)	23 : 00	US	新築住宅販売件数	☆☆☆☆
8 / 27 (木)	21 : 30	US	米GDP改定値	☆☆☆☆
8 / 28 (金)	21 : 30	US	個人消費支出	☆☆☆☆
9 / 4 (金)	21 : 30	US	米雇用統計	☆☆☆☆☆
9 / 8 (火)	8 : 50	J P	日GDP改定値	☆☆☆☆
9 / 10 (木)	20 : 45	EU	欧州中央銀行 (ECB) 政策金利	☆☆☆☆
9 / 11 (金)	21 : 30	US	消費者物価指数 (CPI)	☆☆☆☆